

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

2月16日
第3聖日
3339号

「終わりの祝福」

聖
言

平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンの足を踏み砕いてくださいます。

ローマ16:20

新しい皮袋

中学生の男子がズボンのバンドを緩めているので行儀が悪いと思いました。よく眺めると学生服がはちきれそうなのです。そういえば、入学式にはぴったりの学生服も三年間にどんどん成長するので間に合わなくなるのです。卒業式まで一ヶ月、家庭では買っても着るのはあとわずかだということでも新調するのをためらっています。肉体はおかまいなく成長しているのです。それにしても若さのパワーは目を見張ります。「人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、皮袋は裂けて、ぶどう酒は流れ出してしまい、皮袋もだめになってしまいます。」(マタイ九ノ一七)ここで言う新しいぶどう酒とは福音のことですが、たとえていうなら若さも新しいぶどう酒にしています。昨日まで、まにあっているから大丈夫と悠著なことを言っている場合でないのです。若さに対抗でき、なおかつ、若さの活力を弾力性をもって受け止められる皮袋でなければなりません。人間は掟と制裁という皮袋で若さの力を押さえ込もうとしますが、どちらもだめになってしまいます。若さは無限です。神の皮袋に入れられるとき世界に大きな貢献をする偉大な人物となるのです。しかし、悪魔の皮袋に入れられるとき、世界に災いをもたらす人物になってしまいます。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 神戸長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年二月九日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「分裂を警戒せよ」

「兄弟たち。私はあなたがたにお願いします。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こすひとたちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。」(ローマ一六ノ一七)

福音をまとめたのが使徒信条であり、教会での秩序ある生活に關する教え、戒めがありました。二千年來教会はこれを守ってきました。分裂やつまずき異端はこれらの使徒の教理、または使徒の教えをないがしろにするところから起こったのです。ゆえに、わたしたちは福音の原点に帰るとともに、使徒たちの教えによって信仰生活を送らねばなりません。新しく神のささげものとして生活し、御霊の実を結び、妻と夫の關係のように教会とキリストの關係が結ばれ、真理の柱また土台である教会で健全な教えで整えなければならぬ。教会を建て上げるために信者一人一人が賜物を生かし、有機的に機能しなければならぬ。それはこの世の弱肉強食の論理でなく喜ぶ者とともに喜び泣く者と共に泣く。社会生活において独善的でなく、権威ある者に従い、彼らが眞の神を信じるように祈ることである。教会を利用するだけでなく、しまりのない生活をせず、人のパンを食へないで、自立して社会に証を立てる生き方をする。

二〇一四年 二月五日午後七時 祈祷会 山本牧師

「神のあわれみ(哀歌三ノ二二〜四五)

「私たちが滅び失せなかつたのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。」(哀歌三ノ二二)

自分を犠牲にして人を助ける。良いことをした時嬉しくなり、不正をして得をしても嬉しくない。これは人間が進化してできたものでなく、全て神様の御性質である。罪人が滅ぼされたいのは神の慈しみと憐れみによる。あわれみやいつくしみはどんなときに感

じるかと言うと自分の思うようにいつているときでない。逆境、奴隸、という悩みの時に与えられるものである。イスラエルは普通の国ではなく神様がご自身を現す為を選んだ国である。しかし、彼らは眞の神様を捨て偶像を拜んだ。神様はお怒りになられた。彼らは懲らしめをつけた。当然である。しかし。あわれみといつくしみにみちた神様は御子イエス様を十字架につけてまでイスラエルの民と罪人を愛して下さった。

宣教⑨

第三課 歴史の主人公になられた神

—世界宣教の歴史—

三、五 近現代宣教時代(一六〇〇〜二〇〇〇年) 第五期

この時期、世界史においてはヨーロッパ人が世界各地に植民地を作り、非西欧世界を支配していた。宗教的には前半(一六〇〇〜一八〇〇年)はローマ・カトリックの独壇場だったと言える。マルティン・ルターの宗教改革の影響で、カトリックでも靈的改革が起こり、カトリックの宣教師たちは地の果てまで福音を伝える活発な宣教活動を展開した(中国—マテオ・リッチ、インド—フランシスコ・ザビエル、新大陸—フニペロ・セラ、バルトロ・デ・ラス・カサス、ベトナム—アレクサンドル・ドゥ・ロード)しかし、一九世紀に入るとフランス革命とその混乱によってカトリック宣教は急速に衰退した。一方プロテスタントは内部の神学的混乱を整理し、全地のすべての民に向けての福音を宣べ伝える本格的な近代宣教の一ページを開いた。

三、五、一ローマ・カトリックの宣教師たちの活躍

a) 修道院による宣教・ドミニコ会、フランシス会、アウグスチヌス会、イエズス会などの修道会に所属する修道士たちが、

命を惜しまずに宣教の働きを担った。中でも一五世紀にイグナス・デ・ロヨラによって建てられたイエズス会は果敢な宣教政策によって中南米、アジアなどに大きな宣教の足跡を残した。

b) 地域分割政策…ローマ・カトリックは教会を中心に体系的な組織を備えており、宣教地を分割して重複のない効率的な宣教を行った。

c) 武力と暴力による宣教…国の保護と支援を受け、軍隊に守られながら宣教の働きをしたため、武力と暴力が伴い、集団改宗が強要されることもあった。

(ワイ・ミツシヨンより)

第十四回癒し五〇日連続祈禱

一月三日(日)～三月二六日(日)

午後一時～午後二時半

(祈りの後、楽しいティーで休憩)

場所 教会 階(気軽に参加して共に祈りましょう)

憲法九条雑感

九条は神様の愛を表しているように思えてしかたがありません。軍隊を持たない。武器を作らない。戦争をしない。これはまさしく天国の姿です。

「今や、あなたはお年を召され、あなたのご子息たちは、あなたの道を歩みません。どうか今、ほかのすべての国民のように、私たちをさばく王を立ててください。」(一サムエル八ノ五) イスラエルの裁き司であったサ

ムエルに引退をせまり、普通の国のように王をたてるように国民は要求しました。これはよくある国家の歴史のようにもみえますが、聖書にあるイスラエルと言う国は特別に神に選ばれ愛され、神によって建てられた国だったのです。しかし、イスラエルの国民は、神の支配を窮屈に考えて普通の国のように王の支配に変革を要求したのです。つまり、神の支配を放棄したのです。九条は世界広しといえども、日本だけにある特別なものです。周辺国家を蹂躪したあげく、北方領土を占拠され、沖縄では住民が盾とな

り自決し、南方戦線では戦闘で戦死した人より餓死が大半でした。シベリヤに抑留され、世界で始めて広島、長崎に原爆を落とされた我国を神は憐れみ、九条を与えてくださったのです。ある人は連合軍の押し着せの憲法であると非難しています。いまの政権は九条を改正しようとしているのは、まさしくイスラエルの国民が他の国民のように王をたててほしいと要求しているのと同じです。そして九条を改定して、軍隊を作り、武器を輸出し、戦争もできるようにしたいのです。しかし、イスラエルが王を要求したことは神の支配を望まなかったからです。そのとき神の守りと祝福はなくなるのです。今まで日本は目覚めていたが、していなかったかにかかわらず、九条のおかげで世界から一目置かれていたし、神様の祝福を享受していたのです。しかし、九条を放棄していくならば、まず、神様の祝福は難しくなるし、世界から一目おかれなくなるし、軍隊を養うための税金は増えるさせてもらいますが、九条は国民が守るのでなく、国民が選んだ議員に命がけで守っていたのです。それを見る周辺の国家は天国の憲法である九条をけなげに守る日本を尊敬することはあっても、軽蔑する国はないでしょう。あえて喜ばない国があるとしたら人が破滅することを喜ぶ地獄と悪魔だけでしょう。